念願だった横浜での調査を終えて

金　鎮星
（ブリティッシュコロンビア大学）

私は金鎮星と申しまして、ブリティッシュコロンビア大学（UBC）の博士課程に所属しています。2016年12月に訪問研究員として神奈川大学に滞在しました。非文字資料研究センターと日本常民文化研究所を訪れることができたのは非常に光栄で貴重な機会であり、私のこれからの研究に役立つ、忘れられない経験となりました。

実のところ横浜は、横浜ベイスターズ、横浜F・マリノス、ラーメン、映画「歩いても歩いても」（2008年、是枝裕和監督）等を通じて、私にとって馴染み深い場所でした。その映画は大変感動的で、私のある友人は鑑賞後、日本の芸術を専攻することを決めてしまったほどです。また野球では、1991年に横浜スタジアムで行われた日韓プロ野球スーパーゲームで韓国代表が完敗してしまったことを未だにはっきりと覚えています。

こんな悲しい出来事はさておいて、この都市は歴史的な重要性を持っています。日本において早くに開港した都市の一つとして、横浜は日本近代化の模範であり、文化交流の場所、さらに海外からの侵略に対する防衛前線でありながら、海外進出の先駆けでもありました。このような多様な面が混ざり合い、日本近代史の特性を反映しているといえます。特に横浜の居留地は植民地主義を理解するための手掛かりとなっています。

自然と文明、過去と現在、世俗性と神聖性がバランス良く保たれている都市というのが、横浜に対する私の最初の印象でした。多くの史跡と寺院が非常によく保存されており、事実、私はこの都市の至る所にある古い寺院を訪れることができました。100年以上の歴史を有する幼稚園と小学校もあり、当時とてもかわいかったであろう最初の卒業生が、まだ生きているかどうかについて好奇心が湧いたりしました。

さらに、近代史と関連した多くの史跡と博物館があり、まさに横浜は活きた歴史書であるといえます。特に、新横浜にある新横浜ラーメン博物館はとても魅力的でした。私はこのごく普通の食べ物を特別な文化遺産にまでしてしまう日本人のアイデアに驚きました。素直に言うと、私は展示品を見るより、様々な種類のラーメンを賞味するのにより多くの時間を費やしましたが、それはラーメンの歴史を理解する上で有益な時間でした。豚カツやカステラと同様に、日本人が外国の文化を受け入れた後、自分たちのライフスタイルに沿ってそれらを変えていったという事実を考察することができました。ラーメンの歴史は日本人の歴史を把握するのに適した題材であると思います。

写真１　新横浜ラーメン博物館

写真２　横浜中華街

19世紀後期の韓国と日本の国際関係を研究する歴史家として、私がこの都市に引き付けられないはずはありません。とりわけ非文字資料研究センターと神奈川大学には私の課題に関連する多様な歴史文献、および研究出版物が各種取り揃えられていました。特にこの非文字資料研究センターは、日本および海外の租界・居留地の研究での知名度が高く、このセンターにおいて私は、自分の課題に関する研究書やビジュアル的な資料を読むチャンスを得られました。私はさらに神奈川大学図書館の出版物リストも作りました。このリストをUBCのアジア図書館に提出することによって、カナダの学界に貢献できることを望んでいます。このセンターは私に研究のための理想的な環境を提供してくれたと断言できます。

最も重要なことは、今回の旅を通して新たな出会いがあったことです。孫安石教授は指導教授として、私の課題研究に対し、多くの有益なアドバイスを与えてくれました。センター長である内田教授との面談は少し緊張し

ましたが、楽しいひとときでした。あいにく 15 分ほどの時間しかありませんでしたが、傑出した学者の雰囲気を感じました。チューターの李美大一さん、および姜明采さんには神奈川大学の施設利用方法を教えてもらうとともに、食文化や飲酒文化などを通じて、日本での生活を楽しむ手助けをしてもらいました。彼らとの会話を通じてカナダの大学院生との類似点と相違点を理解することができました。最後になりましたが、成田さんのサポートのおかげで私は参考資料を見つけることができ、神奈川大学のサービスを利用することができました。彼女は非常に辛抱強く私の初歩的な質問にも十分な注意を払ってくれました。彼女の仕事に対する情熱は、未だに印象深く残っています。

私はこの報告を通し、支援してくださった全ての方に心から感謝の意を示したいと思います。

そしてこれから、非文字資料研究センターと UBC の架け橋として、役割を果たしていきたいと思っています。

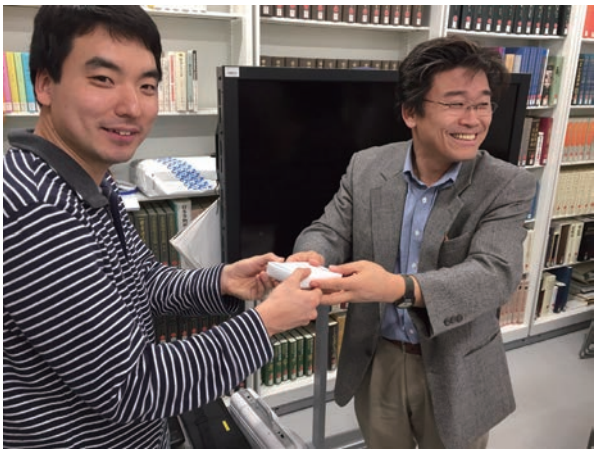

写真 3　孫先生と

非文字資料研究センター 訪問記

任　仁宰
（漢陽大学校）

こんにちは。

私は 2017 年の 1 月 23 日から 2 月 12 日まで、神奈川大学非文字資料研究センターにおいて訪問研究員の資格を得て研究に参加した、韓国の漢陽大学校史学科博士課程のイム・インジェです。

まず、訪問研究員という素晴らしい機会を与えてくださった内田センター長をはじめ、すべての先生方に、感謝の意を表したいと思います。

私は今回、貴大学非文字資料研究センターとの提携機関である、漢陽大学校東アジア文化研究所の推薦を受けて訪問させていただきました。一人で日本に来たのは今回が初めてであり、その上、研究が目的の訪問というのはこれまで経験がなかったため最初は戸惑いもありました。それでも同センターの成田さんと、チューターを務めてくださった松本さん、通訳のカン・ミョンチェさんのおかげで、滞りなく研究過程を終えることができました。

私は今回の日本訪問に際して「日本と韓国のキリスト教学校の設立及び運営」というテーマで研究することを目標にしました。日本に行く前に計画を立て、必要な資料にはどういうものがあるかを調べ、その資料を保存しているところを訪問したいと考えていました。その結果、3 週間にかけて東京と横浜にあるキリスト教系大学の図書館、記念館、資料室を訪問して様々な多くの資料に接することができました。

とりわけ印象深かったのは青山学院大学の資料センターです。予め申し込んでおいた閲覧が許された資料のうち、特に関心のあったものが展示してあったのでそのコピーがあるかどうかを尋ねたところ、係の方が「この資料はここに展示してあるものだけなので、展示中のものを取り出してまいりましょう」と、申し出てくださいました。展示中の原本を取り出すという意外な出来事に驚き、深く感謝したことを覚えています。立教大学の立教学院史資料センターにおいても予想を超えた貴重な資料をいただきました。これらの資料は私の研究に大いに役立ちました。私がこの度訪ねた大学のすべての関係者の方々に、この場をお借りして心より感謝の意を伝えたいと思います。

研究テーマとは直接関係がなかったのですが、個人的に日本の改新教（キリスト教の一派）ゆかりの遺跡を週末の度に探訪できたことはとても貴重な経験でした。青山霊園外人墓地の金玉均墓所、「2・8 独立宣言」が行われた在日本韓国 YMCA の 2・8 独立宣言記念資料室、賀川豊彦記念 松沢資料館などを訪問することができました。特に、松沢資料館の杉浦副館長から、資料館に関する詳しい説明を伺うことができました。賀川豊彦牧師は韓国ではあまり知られていませんが、日本のキリスト教の歴史においては大変重要な人物であることがわかりました。